

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひまわりきっず		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日		令和7年 12月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		令和7年 12月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	柳沢プログラムによる運動療育とカードや読み聞かせによる療育により脳の成長、活性化を促すプログラムの実施	腕力、支持力、跳躍力の3つの視点から体全身にアプローチし、フラッシュカードや読み聞かせによる静の活動へと切替をしっかりと行えるような環境づくりと声掛けをしている	1人1人に合った運動レベルの設定や子どもたちが参加しやすくなるような運動の提供、環境設定 保護者の方と話し合い、個別でストレッチや体の使い方を指導していく
2	集団療育を行うことで小集団に慣れ、社会性を獲得する	家庭、学校以外の社会活動をすることで社会性を獲得する機会を増やしているお楽しみ会を開催し、保護者同士の交流や、両親や学校の先生以外の大人と他教室の利用児との交流により対人関係の構築につなげる。	集団の中で児童の気持ちを汲み取ることでできる大人とのコミュニケーションだけでなく、子どもたち同士でのコミュニケーションをとれる環境設定を行う
3	専門職による専門的な視点からのアプローチ	嚙下や発語に関わる部分を集団や個別に子ども1人1人に合わせた方法でアプローチしている	保護者に携わる機会を増やし、周知していく取り組みを行い、教室だけでなく自宅でも療育の継続とアプローチの回数を増やしていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	マニュアル作成していても保護者への周知がなされていない。災害時の受け渡し方法などの周知が不十分である。	社内向けのマニュアルになっている。	保護者向けの分かりやすいマニュアルを作成し、ホームページやきっずノートで発信していく。 定期的な避難訓練の報告、実施状況、災害時の対応についてをお知らせしていく。
2	教室の活動の様子を十分理解してもらえていない	利用前の見学体験時の様子しか見ていない保護者が多い 普段の活動の様子を見ていただく機会がない。	参観週間あるいは、体験週間を計画し保護者に活動の様子を理解してもらう SNSにて活動の様子を投稿しているため、SNSを通して理解をしてもらう 個人面談で動画や写真などを個別で見せながら普段の様子を話し合える機会を作る
3	地域や他事業所との交流がない	地域の事業所との交流が薄い。	地域との交流をしていくために積極的にアプローチをしていく。